

令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 太田小学校
校長氏名	秦 千穂
作成日	令和8年2月27日

1 教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え、正しく生きぬく子どもを育成する。

	豊かな心の育成	確かな学力の向上	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶をした人数の割合（95%） 掃除を頑張った人数の割合（95%） 読書が好きである人数の割合（80%） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で自分の考えを伝えることができた人数の割合（80%） 週1回以上、自主的に家庭学習を行う人数の割合（80%） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で運動している人数の割合（80%） 学期に1回の避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよくわかると答える人数の割合（90%） 各学年で地域との交流を授業の中に入れるようにする。
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然と挨拶をする子 ◎掃除を愉しむ子 ◎読書が好きな子 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「対話的活動」を大切に授業の推進 ◎自らの課題を追及していく子 ◎基本的な知識及び技能のある子 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎保健指導の充実 ◎危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校からの積極的な情報発信 ◎家庭や地域との連携の充実 ◎地域資源活用の推進
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> 児童会を中心に各学級週当番制で挨拶運動を行った 拭き掃除の徹底を行った 学期に1回各学級で読み聞かせボランティアの方の読み聞かせが行えた 学校図書館を常時開放し、図書委員会を中心に、利用しやすい図書館を目指した 	<ul style="list-style-type: none"> 「対話の素地、ルール」「必然性のある対話」「思考を深める対話」の「対話のスリーステップ」を意識して、研究授業・授業研究を進めることができた 太田タイムにおいて語彙を増やす等、基礎・基本の定着と対話への意欲づけを図った 	<ul style="list-style-type: none"> 風の子活動（縦割り班活動）を行い、運動する機会を増やした 休憩時間には運動場で遊ぶよう奨励し、多くの児童が体を動かして遊んだ 助産師による授業や保健指導、保健便りを通して、自分の体のことや健康への意識を高めた 危機回避能力を育成するために避難訓練や交通安全教室を計画的に行った 	<ul style="list-style-type: none"> 各種便りを通して、積極的に学校の情報を発信した 学校からの連絡を可能な限りデジタルで送信するようにした 可能な限りゲストティーチャー等の人材を活用した（視覚障害の方、助産師、外国語など） 2つの保育所、中学校と連携し交流授業を行った
取組の成果と課題（評価結果）	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく挨拶ができる児童は低学年で89%、中高学年で79.1%で昨年度を上回った 掃除を一生懸命にできた児童は96%を超え、何年にもわたって高水準を維持している。 読書が好きと答えた児童は、低学年で93.4%中高学年で70%で、低学年は伸び、中高学年は下がった。年齢が上がるにつれて、本からPCやスマートフォンに移行しているのかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを進んで伝えることができたと答えた児童は低学年で86.4%中高学年で61.9%と指標には届かなかった 今年度の授業への理解度は低学年で92.6%、中高学年で88.4%と、例年と同じく高い水準を維持できた ペア、グループ他、様々な意見交流の場を授業の中に意識的に取り入れた 太田タイムでは、語彙力や対話力の 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間で6回の風の子活動（縦割り班活動）を実施できた 運動場で遊ぶ児童が多い（低学年84.8%、中高学年70.1%） 縄跳びに取り組む児童が多い 1学期火災、2学期地震津波、3学期不審者対応訓練（教職員のみ）を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えていると答えた保護者は88.7%と昨年とほぼ同数だった 育生会主催のイベント（太田まつり、ドッジボール大会）は、役員の方々のお力で開催することができた 幼小連携・小中連携だけでなく地域の人材のご尽力をいただいて授業を行った
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けての 蔵書数を増やすことも含め児童が来なくなる学校図書館にするため環境改善により一層努める 児童会や委員会がより児童主体の活動になるように児童の意識を高めるよう取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 「対話の素地・ルール」「必然性のある対話」「思考を深める対話」を「対話のスリーステップ」と位置づけ、一つの単元や一つの授業の中に組み入れていく授業づくりを続ける 系統性を重視して太田タイムの取り組みを共有化する 授業を公開し、教員相互に参観し合えるような仕組み作りに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 風の子活動の内容を見直し、より充実したものにする 避難訓練の機会を増やすとともに、危険の想定をより具体的に設定し、訓練の質的向上を目指す 教科の学習や時期的な機会をとりえ、防災教育を計画的に実施していく 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツールを使って学校の情報を発信することを増やしていく 学校便りを自治会ごとの回覧板で見てもらっているが、児童から発信する機会をもつ 地域の方々とのつながりを増やす活動をさらに増やす

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> 風の子活動のほかにも、学年間などで、異学年交流の機会を多く設定したい
--